

令和6年7月25日

教育厚生委員会視察報告書



伊豆市議会教育厚生委員会 青木 靖

・視察日程 令和6年 7月10日～11日

・視察地 埼玉県八潮市 八潮市立八條北小学校
埼玉県草加市 草加市リサイクルセンター
群馬県高崎市 高崎市タワー美術館

1. 八潮市立八條北小学校「英語指導力改善事業における外国語教育について」

埼玉県八潮市は、つくばエクスプレスの開業とともに駅の南側が開発された一方で農地の多い北側は現状維持の傾向にある。八條北小学校はこの駅北側のエリアに位置し、かつて不登校や学力低下が問題になったことから、課題解決のため、5つの部会で①学び②体力③こころ④支援⑤ICTに取り組み、「いじめゼロ条例」も制定している。

又、八潮市では、小学校10校と中学校5校を、中学校1+小学校2の3校で1ブロックに分け、計5ブロックでそれぞれ分離型の小中一貫教育を行っており、19年目になる。

八條北小学校では、独自の特色ある教育として、「外国語教育の推進」を取り入れた。内容は、「言語活動を中心とした授業展開」「ENGLISH DAYの実施」「八北タイムでの外国語活動」「語学指導補助員、ALTと連携した指導方法の工夫」があげられる。

具体的には、ビデオ教材を活用し担任教師と指導補助員かALTが二人で英語のみを使って児童を指導する時間を多く設定し、「考えや気持ちをどう伝えるか」を学び、修学旅行で中学生にそれを伝えることをゴールに設定している。英語の発音については、日本人が間違えやすいAとU、LとRなどを「フォニックス」として、からだを動かしながら歌いながら特訓している。他にも「八北イングリッシュタイム」+「スマイルトーク」等、英語に親しむ時間を多く取っている。活動の様子は、さながら民間の英会話教室のテレビCMのようであった。成果は埼玉県で評価され、各種の補助事業に採択されている。

八條北小学校は、人口9万人の八潮市にあって各学年1クラスで全校児童75名の小規模校。課題解決と特色ある取り組みを模索した結果の英語教育だったとのことだった。

2. 草加市リサイクルセンター「不用品リユース事業の現状と今後の課題について」

草加市では、粗大ごみをリユース品として展示販売する事業をおこなっている。市民から出された粗大ごみのうち、まだ使用できるものについて所有者の了解のもと無料で引き取り、希望する市民に売却するもの。

市民のリサイクル意識の高揚とごみの減量化を図り、循環型社会の形成を推進することを目的としている。

近隣の他市で粗大ごみのリユース品販売を始めたことから、同市でも取り組んだ。草加市のリサイクルセンターで対応可能な範囲での業務量を考慮しての事業内容となっていると感じた。

市民から無料で引き取った不用品の内、職員がまだ使えると判断したものを選定しクリーニングはせず、月に1回（第4土曜日）リサイクルセンタープラザ棟1階で、展示品を見に来た希望者に先着順で売却している。販売品は、テーブル・いす・収納ケース等の家具類で、電化製品や自転車などは扱わない。対象者は、市内在住者に限る。購入者は自分で購入品を持ち帰ることが条件。各種テーブルなどが、500～600円程度で販売されていた。ネット販売は行っていない。

今後の検討課題として、対象品の選別方法の検討、メルカリなどの活用、修理・清掃・販売を障がい者就労施設に依頼するか、又、他の自治体の例にならって処理手数料を徴収するか、などがあげられていた。

3. 高崎市タワー美術館「複合施設に併設された美術館の現状と課題」

高崎市タワー美術館は、平成13年11月、高崎市美術館（高崎駅西口）に次ぐ市立美術館として、JR高崎駅東口前の「高崎タワー21」内に開館、日本画を中心に展覧会を年5～6回開催、横山大観・平山郁夫をはじめとする近代・現代の日本画作品を展示している。高崎市は、文化交流拠点都市として、高崎駅から徒歩圏内に位置する二つの美術館で、総合的な美術鑑賞の機会を提供し、隣接する高崎芸術劇場とも併せて、駅周辺の地域経済活動にも貢献する取り組みを行っている。

高崎市タワー美術館の令和4年度の収支は、歳入275万円に対し歳出8,750万円。館長は、「美術館は収益事業ではない。高崎駅周辺の三つの芸術施設を回遊する人々がにぎわいを創出することで大きな経済効果を生む」と。

令和5年度の有料入館者6,748名、無料入館者13,479名（内65歳以上8,745名64.8%）。

高崎市は美術館を収益事業とは位置づけていないことがわかる。当美術館が入るビルは、上層階がマンションで65歳以上の方が多い。

複合施設内に美術館を設けるメリットとして、美術愛好家だけでなく、他の施設の利用者も美術に触れることが出来ること、施設内の集会室を借りることができ、多数の参加者が講演会や会議に利用できること、をあげている。

複合施設のデメリットとしては、美術館には展示スペースや照明・空調設備など美術館特有の要件に合わせた空間や設備が必要となるが、複合施設では建物の構造や形態に応じた配置となるため美術館としての制約が生じること、タワー美術館では開館中は警備会社のセキュリティを解除しているため、事務室以外の場所にも外部から出入り出来てしまう（収蔵庫除く）、上層階が居住スペースであるため居住スペースで火災等が発生した場合展示品・収蔵庫内の作品に影響が及ぶことが懸念されること、美術品輸送専用車両の駐車場や搬入出入口が無い場合展示作品等の搬出入に苦慮している、などがあげられている。

以下、館長談。『伊豆市収蔵の美術品は120点程度で、点数的に美術館としての展示は無理。「若き日の画家が過ごした修善寺」など歴史的経緯に価値があることは確か。関連資料を集めて合わせて展示するなどの企画力が必要ではないか。お金をもらって観てもら。「美術館」は、「ギャラリー」とは違う。ガラスケースで温度・湿度が管理された「展示スペース」がある観光を含む複合施設+収蔵庫、ならありえる。高崎市の美術館は、教育部局ではなく、市長部局の総務部の中にある。』

いずれにしても、伊豆市の財政規模で、美術館を運営できるのかが問題であって、総合的な費用対効果を十分検証する必要がある。

以上